広報
まつざき
2007
（平成19年）
9
No.520

万華鏡づくりに挑戦（8/19 図書館夏休み企画）

賀茂地区１市５町の合併を想定した
財政の概要まとまる

本年四月より南伊豆地区合併調査委員会の事務局を下田総合庁舎に置き、新市の財政シミュレーション等の作成作業を行ってきましたが、このたび、表のとおりシミュレーションがまとまりましたのでお知らせします。

今後、これらを基に賀茂地区一市五町の合併に向け、年内の法定合併協議会の設置を目指していきます。

新市の財政シミュレーション

□歳入の試算結果

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地方税	9,069	9,680	9,636	9,595	9,557	9,520	9,486	9,453	9,423	9,394
地方譲与税	939	382	382	382	382	382	382	382	382	382
地方交付税	9,890	9,401	8,988	9,125	9,125	9,125	9,125	9,125	8,840	8,270
国・県支出金	2,698	2,995	3,120	3,827	3,802	3,777	3,753	3,730	3,707	3,685
繰入金	1,055	195	797	359	137	0	0	0	0	0
地方債	2,057	2,356	2,314	2,229	2,194	2,160	2,127	2,095	2,064	2,033
その他の歳入	4,659	4,622	3,899	3,354	3,305	3,323	3,799	4,536	5,470	6,083
歳入計	30,367	29,631	29,136	28,872	28,502	28,287	28,672	29,321	29,886	29,848

□歳出の試算結果

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人件費	7,101	6,733	6,670	6,174	5,975	5,690	5,490	5,291	5,091	4,892
扶助費	2,270	2,300	2,303	3,323	3,326	3,328	3,331	3,334	3,337	3,340
公債費	4,816	4,466	4,212	3,919	3,938	3,722	3,539	3,290	3,176	2,943
投資的経費	2,678	3,403	4,108	3,999	3,893	3,791	3,691	3,595	3,501	3,411
その他の歳出	12,170	12,134	11,807	11,457	11,369	11,300	11,445	11,722	12,097	12,311
歳出計	29,035	29,036	29,100	28,872	28,502	27,830	27,497	27,231	27,203	26,897

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収支（歳入－歳出）	1,332	595	36	0	0	457	1,175	2,090	2,683	2,951

実質収支

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基金取り崩しがない場合の収支差額	277	400	－761	－359	－137	457	1,175	2,090	2,683	2,951

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基金残高	6,350	6,821	6,321	5,980	5,843	5,843	6,072	6,659	7,704	9,045

※四捨五入の関係上、歳入、歳出の合計額が決算統計等の数値と合わないことがあります。

松崎町単独の財政シミュレーション

□歳入の試算結果

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地方税	766	847	844	841	838	835	833	833	833	833
地方譲与税	98	39	39	39	39	39	39	39	39	39
地方交付税	1,341	1,282	1,225	1,171	1,171	1,171	1,171	1,171	1,171	1,171
国・県支出金	254	350	295	293	290	287	285	282	280	278
繰入金	74	173	136	114	129	149	163	134	58	55
地方債	232	355	270	260	256	253	249	245	242	239
その他の歳入	737	531	407	408	401	403	405	407	408	410
歳入計	3,501	3,576	3,216	3,126	3,125	3,137	3,144	3,108	3,027	3,018

□歳出の試算結果

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人件費	821	758	707	700	685	685	685	685	685	685
扶助費	206	212	212	213	213	213	213	214	214	214
公債費	458	461	453	381	405	427	444	417	344	343
投資的経費	347	706	465	452	441	429	418	407	397	387
その他の歳出	1,544	1,440	1,378	1,380	1,381	1,383	1,384	1,386	1,387	1,389
歳出計	3,375	3,576	3,216	3,126	3,125	3,137	3,144	3,108	3,027	3,018

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収支（歳入－歳出）	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実質収支

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基金取り崩しがない場合の収支差額	52	－173	－136	－114	－129	－149	－163	－134	－58	－55

（単位：百万円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基金残高	1,510	1,400	1,264	1,150	1,021	872	709	575	517	462

※四捨五入の関係上、歳入、歳出の合計額が決算統計等の数値と合わないことがあります。

新市財政シミュレーションの考え方（主なもの）

○平成21年度合併とし、新市シミュレーションは平成21年度当初から作成する。

○シミュレーションの最終年度は平成27年度とする。

○交付税の算出を除き、合併にかかわる臨時的な歳入歳出は見込んでいない。

○交付税は、合併後５ヵ年は各市町単独財政シミュレーションの合計＋扶助費算定分。その後、段階補正分を新市として再計算＋扶助費算定分（激変緩和有り）

○職員数は、類似団体の平均（628人）を定員とし、7年間で（193人を）段階的に減員する。

【問合せ】
企画観光課（４２）３９６４

那賀川河口津波対策について

東海地震が発生すると大津波による大規模な被害が想定されています。県や町では人的・物的被害を最小化すべくハード整備とソフト対策を進めていますが、被害の最小化は行政だけではできません。皆さんのご理解とご協力が必要です。

これまでの経過

町では、静岡県の「那賀川の川づくり」を踏まえて、津波対策、洪水対策、環境などを総合的に検討する那賀川水系河口周辺治水対策委員会を、平成十四年に設置し、平成十七年まで十三回の会議を重ね検討を進めてきました。

会議の結果、平成十七年六月に委員会から町長に対し、「洪水対策」、「内水対策」、「津波対策」、「総合判断」の四点から意見具申がされました。

特に「津波対策」では、那賀川河口水門建設についての賛成意見と避難塔など水門以外の施設整備による対策を求める二つの意見が出されました。

「総合判断」では、水門、避難塔などは経費と時間がかかり、住民生活に大きな影響を与えることから各種調査結果等をよく検討し、地域住民の意見を十分集約した対応手法を求めています。

町では、意見具申に基づきソフト対策として、平成十七年度に津波避難シミュレーションの作成、電柱への浸水深の表示、平成十八年度に津波ハザードマップの作成を行ってきました。

津波避難シミュレーション

那賀川河口域における津波の遡上と避難のシミュレーションを映像化したもので、津波は地震発生から八分後に松崎港に到達し、発生後十六分で最大浸水範囲の全域が浸水し、時間的な猶予が非常に少ないことが示されています。

浸水被害の軽減のためには施設整備等のハード整備による浸水範囲の縮小と、住民の防災意識の向上、避難行動の迅速化などソフト対策の実施が有効であるとの結果になりました。

津波ハザードマップの活用を

津波被害を軽減するためには、皆さんが危険箇所や避難場所、避難経路などを把握し、迅速な避難行動をとることが必要です。

このため、町では津波浸水被害が想定される那賀川河口域十一地区（松崎五区、江奈四区、宮内、道部区）の区長さんはじめ防災委員など多くの皆さんの参加、協力をいただき、避難経路の現地調査などの検討会や地区内での検討を通してハザードマップ（防災地図）の作成を行いました。

地図には、津波到達時間、浸水深の範囲、危険箇所、避難場所、避難経路などを網羅し、該当地区には各戸配布されています。

津波対策懇談会

町では津波の浸水被害が想定される十一地区を対象に七月から九月にかけ「那賀川河口津波対策に関する懇談会」を開催しています。

懇談会では、津波被害の状況を再認識していただくとともに、津波に対して必要となる取り組みについて皆さんと意見交換を行い、施設整備に関する意見集約をしていきますので、よろしくお願いいたします。

【問合せ】
産業建設課
（42）3965

津波ハザードマップの一部

小・中学生による

姉妹都市交流

帯広市役所前で

松崎から帯広へ

鈴木正志中川小学校長を団長とした小中学生ら十五人が七月二十五日から二十七日まで帯広市を訪問しました。

一行は、帯広市長への表敬訪問や依田勉三翁のお墓参りなどの他、パークゴルフで帯広の子どもたちと交流を深めました。また、ソーセージ作りや搾乳体験、ばんえい競馬場の見学など帯広ならではの有意義な体験学習をすることもできました。

この三日間の訪問で、依田勉三翁の偉大な功績に触れると共に、参加者にとってすばらしい夏の思い出を作ることができました。

国宝松本城前で

松崎から安曇へ

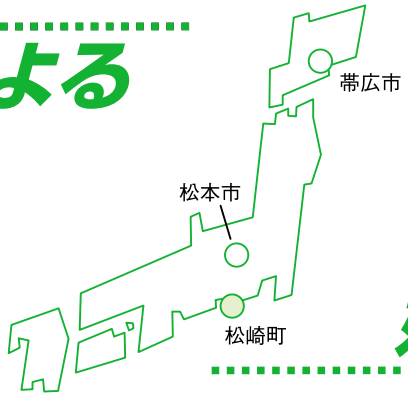
渡邉明道松崎中学校長を団長とした松崎中学校二年生の一行四十一名が八月二十日から二十二日まで松本市安曇地区（旧安曇村）を訪問し、歓迎を受けました。

一行は松本市到着後、一昨年重文岩科学校と姉妹館提携を結んだ旧開智学校や松本城を見学しました。

翌日は、ボランティアガイドの皆さんの案内で大正池や河童橋など上高地の散策を行い、午後からは安曇地区の中学生と交流会を行いました。交流会では草木染めやおやき造りなどに挑戦しながらお互いの親睦を深めました。

牛の乳搾りを体験（帯広）

ガイドさんと一緒に（安曇）



安曇から

松本市安曇地区（旧安曇村）の中学生ら二十三名が七月三十一日から八月二日までの三日間の日程で来町しました。

一行は、町長を表敬訪問した後、長八美術館や重文岩科学校など町内の文化施設を見学しました。

訪問中は好天にも恵まれ、岩地海岸では地引き網や海水浴を楽しみ、松崎海岸では松崎中学校二年生と海水浴やカヌーの試乗などを楽しんで、お互いの交流を深めました。

中には初めて海で泳ぐ生徒もいて、海水の塩辛さに驚きながら、松崎の夏の海を十分に満喫していました。

岩地海岸で地引網を体験

帯広から

帯広市の子供親善訪問団の小中学生ら十五名が八月七日から九日までの三日間、松崎町を訪れました。

一行は、町長を表敬訪問した後、重文岩科学校や長八美術館などを見学しました。中でも依田勉三翁にゆかりのある三余塾資料館や大沢温泉ホテル訪問では、勉三翁の話しに熱心に耳を傾けていました。

訪問中は好天にも恵まれ、照りつける太陽のもと、松崎の子どもたちとカヌーや海水浴を行い、夜はミニホームステイでお互いの交流を深めるなど、楽しい夏休みの思い出をつくることができました。

勉三翁の生家を見学

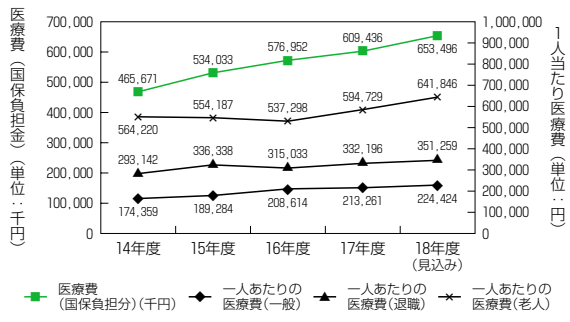
国保医療費の分析と基本健診の状況

松崎町国民健康保険特別会計の医療費は、近年の高齢化の急速な進展や医療の高度化、ドクターヘリの普及による救命率の向上等により、年々増加傾向となっており、グラフ1のとおり平成十四年度と平成十八年度を比較すると40パーセントも伸びています。

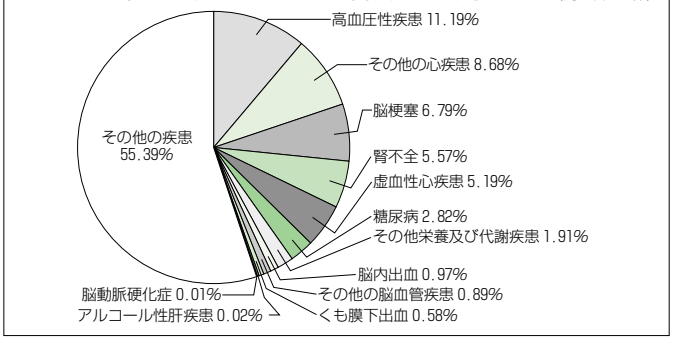
中でも、生活習慣病の増加が医療費増加の最大の原因として挙げられ、生活習慣病を中心とした疾病予防を重視することが急務となっています。

静岡県の統計では、県民の八人に一人、四十歳以上では五人に一人がメタボリックシンドローム該当者および予備軍と推計されています。

グラフ1　国民健康保険　医療費の推移



グラフ2　平成18年5月　主な生活習慣病の費用額割合（男女計：全体）



医療費による分析

平成十八年五月診療分を見ると、生活習慣病にかかる医療費はグラフ2のとおり、五千八百二十七万四千円で五月分全体医療費の45パーセントを占めており、県平均の37パーセントを大きく上回っています。

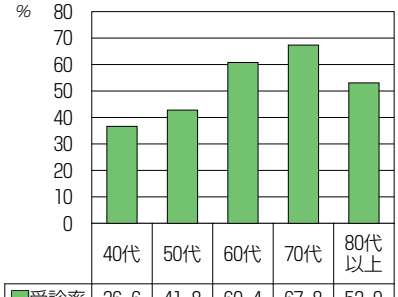
基本健診の受診率

今年度実施した基本健診では、グラフ3のとおり、四十代、五十代の方々の受診率が低くなっています。早期発見、早期治療をするためには、この年代で受診し、健診結果に基づく保健指導を受けることが必要です。

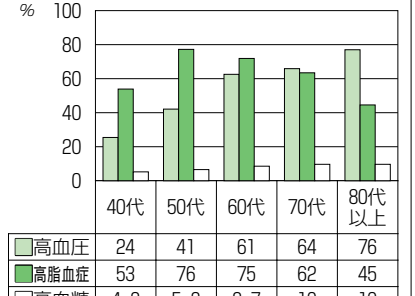
また、年代別の異常者は、グラフ4のとおり、高血圧、高血糖は年代が高くなるにつれて、異常率も上昇しており、高脂血症は、五十代、六十代が特に高く、受診者の四分の三が異常値を示しています。

医療費の分析や健診結果から、メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍が多く、早期の生活改善が必要となることがわかります。

グラフ3　受診率



グラフ4　年代別異常者の割合



特定健診・特定保健指導

今まで町が実施していた基本健診は、平成二十年四月から医療保険者（国保や社会保険、共済組合など）が実施主体となり、四十歳から七十四歳までの方を対象に、特定健診・特定保健指導として義務付けられることになります。これは、国民医療費の約三分の一を占める生活習慣病に着目し、その中でも特に心疾患、脳血管疾患の発症の重要な危険因子である糖尿病、高血圧、高脂血症等の有病者及びその予備軍を抽出し、早期介入・行動変容支援（動機付け支援・積極的支援）を行なうことにより生活改善を図り、該当者および医療費を減少させることが目的となります。

また、国が定めた基準の中には、平成二十七年度には受診率を80パーセント、有病者及びその予備軍を25パーセント減少させることを目標とし、まず、平成二十四年度までに受診率65パーセント、減少率10パーセントを掲げています。その達成の状況にあわせて後期高齢者医療広域連合への支援金の負担率が増減されることも決まっています。達成率が低いと、支援金の負担率が増加し、国保税への影響が出てくるため、皆様の負担が増加する可能性があります。

町民の皆様の健康保持のため、また、国保税の負担軽減のためにも、まずは特定健診の受診をお願いします。

【問合せ】
健康福祉課（42）3966

行財政改革経過報告

事務経費等の節減実績とサービス向上宣言

松崎町は、平成十六年度から行財政改革に取り組んでいますが、その一環として、全職員を挙げて、庁舎内外における経費等の節減に取り組んでいます。このほど、平成十八年度における事務経費等の節減状況がまとまりましたのでご報告します。

主な内容は下の表のとおりですが、夏や冬にエアコンの使用時間や室温の管理を徹底したことにより灯油は十六年度と比較すると使用量で五割超の減となり、料金を見ても約四割の減額になっています。また、コピー機の入れ替え等により、コピーにかかっていた料金も半額以下になりました。その他にも郵便・宅配料金、電気料金、水道料金などを合わせると六二五万円程の経費の節減ができました。(対十六年度比較)

この他にも、役場にかかっている経費は数多くあります。これまで、随意契約により前年同様に契約を行ってきたものの見直しに着手し、競争を導入したことにより、経費の節減につながった事例も出てきています。これらの結果などについても順次皆さんにご報告してまいりますが、限られた財源の中で、皆さんからいただいた税金を有効に活用するために職員一同、より一層の努力を続けてまいります。

また、平成十八年から始めた「役場職員サービス向上宣言」も一年半以上経過しましたが、毎月数件はご利用いただいています。

この制度は平日に役場に行くことが難しい場合に、お近くの役場職員が町民の皆さんに代わって、住民票等の各種証明書の取得や、納税、各種届出をお手伝いするものです。内容によってはどうしてもご本人でなければできないこともありますが、お気軽にお声をおかけください。

【問合せ】
総務課(42)3963

平成18年度　事務経費等の節減実績

	電話料金	空調用灯油		水道料金	電気料金	郵便・宅配	コピー		料金合計
	(千円)	料金(千円)	使用量(ﾘｯﾄﾙ)	(千円)	(千円)	料金(千円)	料金(千円)	枚数(枚)	(千円)
平成16年度	1,668	2,181	33,735	312	7,158	6,875	4,447	671,165	22,611
平成17年度	1,590	2,185	27,010	265	6,339	6,802	1,931	672,208	19,112
平成18年度	1,342	1,358	15,232	177	6,365	5,221	1,894	831,113	16,357
平成16年度対18年度の比較	−326	−823	−18,503	−135	−793	−1,624	−2,553	159,948	−6,254
	−19.5%	−37.7%	−54.8%	−43.3%	−11.1%	−23.7%	−57.4%	23.8%	−27.7%

百歳のお祝い

宮内しかさん(道部)
明治40年8月2日生

8月2日、山本副町長が宮内さん宅を訪問し、記念品を贈呈しました。

松崎文芸

―俳句―

生かされて悔なき日々や今朝の秋　小林忠男
秋立つや風のあそべる花時計　稲葉文字
はや秋に入りたる波の高さかな　石田宏
都会娘を待ってる土間の大西瓜　依田ふじ枝
朝顔や間合ひ程良く咲きにけり　松田美智子
訪れる人なく吾が家赤とんぼ　山本武男
電照の準備整ひ秋に入る　山本一詞
立秋の厠より見しジェット雲　細矢金治
明け時の雀の声や秋に入る　鈴木すみ江
秋立つや婚衣着る子の日の真近　吉岡うた子
捕虫網それより高く群とんぼ　小林一男
今朝の秋鍬持つ腕の軽くなり　土屋規矩子
絶壁に山百合顔を上げにけり　清水高子
草とりていれば山鳩我に啼く　佐藤享
ギャラリーは石蔵造り秋夕焼　斎藤みつ子
夕顔の咲きそむ宵の静寂かな　稲葉菊恵

まちのできごと

新世紀松崎三聖塾夏季宿泊体験学習

七月二十四日から四泊五日の日程で「新世紀松崎三聖塾夏季宿泊体験学習」が道の駅花の三聖苑を拠点に開催されました。小学校五年生が親から離れ、合宿しながらいろいろな体験活動を行うもので、今年で七年目となりました。

参加した四十二人は、川の観察やビオトープづくりに挑戦しながら自然や環境への理解を深めていました。

夏まつり

八月十五日・十六日の両日、三浦・松崎地区で恒例の夏まつりが行われました。

十五日は、三浦地区の各海岸で花火大会が、十六日は、松崎地区で灯ろう流しや花火大会、牛原太鼓の演奏が行われ、多くの人で賑わいました。

今年は、松崎地区の浜丁通りや仲宿通り、明地通りが灯ろうで装飾され、祭りの雰囲気を一層高めていました。

西豆イングリッシュサマーキャンプ

西豆地域の中高生を対象に英語漬けの二日間を体験してもらう「イングリッシュサマーキャンプ」が、八月二十一日・二十二日の両日、環境センターなどを会場に開催されました。

参加した二十九人の中高生は、英語が飛び交う中、外国人の先生や静大生と歌やクッキー作りを通して英会話を楽しんでいました。

子供たちが遊ぶ川

夏、子供たちの川遊び風景は、昔の風物詩だと思っていた。しかし、この夏は若干違うなと感じた。

ある日曜日、車で走りながら那賀川、岩科川の状況を見た。所々で親子が川遊びをしており、子供達は、楽しそうに川原を飛び跳ねている。賑やかな声、小鮎でもいたのであろうか浅い所まで追い込み、手で捕まえていた。

また、伏倉から伊那下神社を流れる用水路では、二人の男の子が、網とびくを持って、草むらに網を入れたり石を上げてみたりしている。獲物がいたようで大声で話している。よほど何が獲れるか聞いてみようかと思ったが、せっかくの楽しみを邪魔しては悪いと遠慮してその場を離れた。

松崎町の河川には、川えびが増えたという話を聞く。どんなえびかと聞くと一応に手長えびだという返事であった。昔は、「デナガー」、「ハサンパー」、色々なえびがいた川である。

手長えびが増えたという事はほかのえびも増えたのではないかと思う。川えびを増やして子供たちが楽しく遊べる川にしたいと思った次第です。

松崎町長　深澤　進

町長室からこんにちは ㊾

広報まつざき
通刊第五二〇号
二〇〇七年 九月一日発行

町の人口と世帯

（平成19年７月31日現在）
（　）内は前月比

総人口	8,324人（－1）		
男	3,959人（＋1）		
女	4,365人（－2）		
世帯数	3,164戸（＋3）		
転入	15人	転出	10人
出生	7人	死亡	13人

町の交通事故

（平成19年７月31日現在）
（　）内は前年対比

人身事故	14件	（　－５）
物損事故	58件	（　－２）
死者	０人	（　±０）
傷者	19人	（　－10）

戸籍だより（７月届出分）

おくやみ申し上げます（死亡）

地区	氏名	年齢	届出人
北区	望月一二三	81	正枝
峰	杉原徳子	67	孝直
船田	佐藤ます江	83	佐藤豊彦
明伏	松原貞子	86	輝明
岩地	髙橋あき	95	多聞
雲見	髙楀清一	80	髙楀喜久郎
小杉原	佐藤主税	80	節子
江奈１	樋口裕子	69	秀夫
峰	山本きく	90	和美
山口	山本恒久	56	ゆり子
江奈３	石田房江	85	良一
池代	山本睦郎	92	鈴木優

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

おめでとうございます（出生）

地区	名前	性別	保護者
船田	優（ユウ）	女	石田和也
野田	佑美（ユミ）	女	斉藤良彦
北区	輝（ヒカル）	男	斎藤治之
指川	拳心（ケンシン）	男	佐藤聖人
岩地	彩奈（サナ）	女	青木一美
岩地	愛翔（マナト）	男	青木一美
江奈２	拓永（ヒロト）	男	田村健

保健師だより

高脂血症の改善の基本は生活習慣の改善！

血液中の脂質は、食事や運動などの生活習慣の影響を大きく受けることから、高脂血症の治療には生活習慣の改善が欠かせません。

食事療法にはいくつかのポイントがありますが、そのうち最も基本になるのが摂取エネルギーを適正な量に抑えることです。摂取エネルギーを適正にすると、肥満を解消することができ、体脂肪が減ります。併せて運動を行い、消費エネルギーを増やしてエネルギーのバランスがマイナスに傾くようにします。ウォーキングやジョギングなどの有酸素運動を一日三十分週五日長期間、定期的に行えば効果が期待できます。

１日に必要なエネルギー量（kcal）＝

標準体重（kg）×標準体重１kgあたりに必要なエネルギー（kcal）

標準体重（kg）＝身長（m）×身長（m）×22

○標準体重１kgあたりに必要なエネルギー（kcal）の目安

・安静にしていることが多い場合
　20～25kcal
・デスクワーク中心の場合
　25～30kcal
・営業などで体を動かすことが多い場合
　30～35kcal
・農業・漁業・建設業など運動量が多い場合
　35～40kcal

姉妹都市通信

帯広市からおびひろ平原まつり

おびひろ平原まつりは八月十四～十六日に開催され、今年で第六十回を迎えました。

今回は、まつりにちなみ、地ビールを紹介します。

帯広では現在二店で飲むことができ、平原まつり会場のほぼ中央に「Gビールストリート２００７」が設けられ、多くの市民で賑わっています。（写真左下）

帯広のおいしい水と地元の麦を使い、本場ドイツ仕込みの技術で作られた地ビールは、おびひろの味に欠かせないものになっています。

味はことばで表現できないので、帯広に来た折には是非味わってください！

また「北の大地de大道芸」と題したイベントでは、すばらしいパフォーマンスを見せてくれます。（写真左上）

夕方からは、若者を中心に「夢降夜（ゆめふるや）」が始まり、まつりは最高潮に盛り上がります。

来年は松崎町のみなさんも参加していただき、私たちと一緒に楽しみましょう。

発行　静岡県松崎町　編集　総務課
印刷　㈲山本印刷

〒四一〇－三六九六　静岡県賀茂郡松崎町宮内三〇一ノ一
☎〈〇五五八〉四二－三九六三　FAX〈〇五五八〉四二－三一八三